

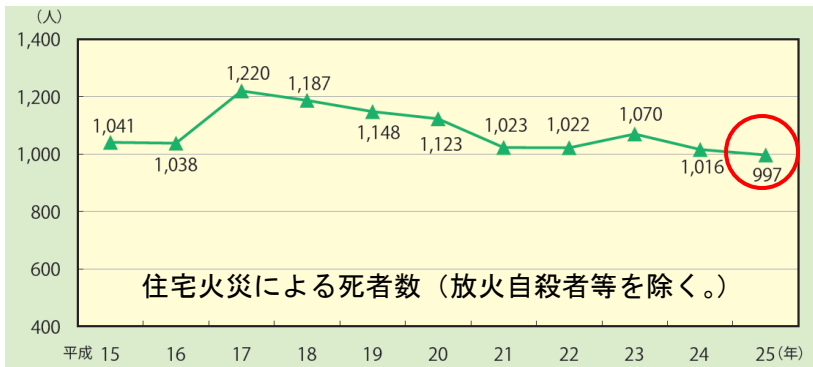
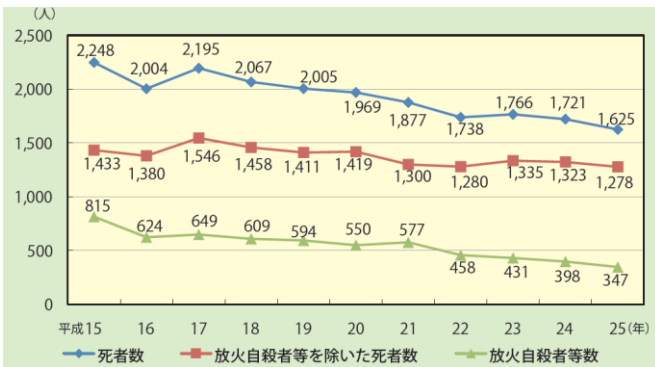
平成26年度版 消防白書について

平成26年版消防白書が平成26年12月19日に公表されました。

詳細は消防庁ホームページで http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h26/h26/pdf/h26_all.pdf

〔1〕10年間の出火件数と火災による死者数

火災による死者数は減少傾向にあり、平成25年は住宅火災における死者数が1,000人を下回りました。



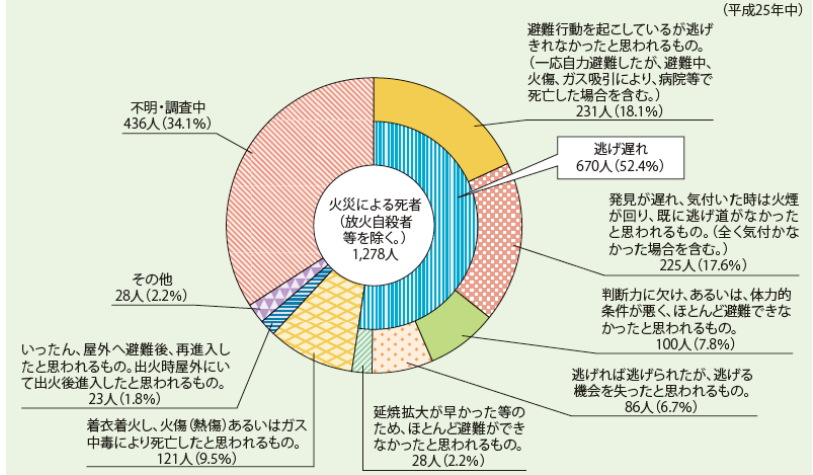
〔2〕1日当たりの火災の状況

平成25年 出火132件、損害額2.5億円、死者4.5人。

〔3〕火災による経過別死者発生状況 (放火自殺者等を除く。)

53%が“逃げ遅れ”で亡くなられています。

区分	単位	平成15年	平成24年	平成25年	
全火災 1日当たり	出火件数	件	154	121	132
	損害額	百万円	365	245	249
	焼損棟数	棟	121	97	96
	建物焼損床面積	m ²	4,307	3,110	3,243
	建物焼損表面積	m ²	461	324	330
	林野焼損面積	a	199	102	266
	り災世帯数	世帯	81	61	59
	り災人員	人	211	143	136
	死者	人	6.2	4.7	4.5
	負傷者	人	23.6	18.7	18.8



〔4〕初期消火における消防用設備等の使用状況

全体の約4割の火災で、初期消火がされていません。2割の火災で、消火器が使用されています。

消火栓・固定消火設備は、ほとんど使用されていません。

	簡易消火器具		消火器		屋内消火栓設備		固定消火設備		その他		初期消火なし		合計	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)
平成15年	3,763	6.7	13,097	23.2			647	1.2	17,860	31.7	20,966	37.2	56,333	100.0
平成25年	2,495	5.2	9,118	19.0	133	0.3	423	0.9	18,096	37.6	17,830	37.1	48,095	100.0

(備考) 1 「火災報告」により作成

2 「消防用設備等」とは、消火、避難、その他の消防の活動のための設備等(消火器、スプリンクラー設備、自動火災報知器設備、避難器具、誘導灯等)をいう。

3 「簡易消火器具」とは、水バケツ、水槽、乾燥砂等をいう。

4 「固定消火設備」とは、スプリンクラー設備、水噴霧消火設備、不活性ガス消火設備、泡消火設備等をいう。
 (屋内消火栓設備については、別枠を作成したため除く)

5 「その他」とは、「水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた」、「寝具、衣類等をかけた」等をいう。

消火ポンプ トップランナーモーター（電動機高効率規制） 2015年4月スタート

経済産業省より省エネ法改正が告示され、『トップランナーモーター規制』が施行されることとなり、2015年4月より従来の基準よりも効率的な『トップランナーモーター』の出荷が電動機メーカーに対して義務付けられます。消火ポンプのモーターについても適応され価格が現状より上がります。

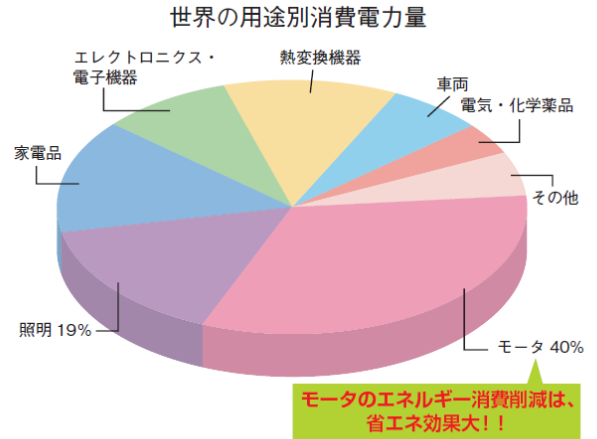
背景

地球環境保護や温暖化防止を目指して、エネルギー消費量の抑制・削減のため、1979年に省エネ法が制定され、さらに1999年の改正により、エネルギー消費効率の向上と普及促進を目的として、「トップランナー制度」が導入されました。「トップランナー制度」とは省エネルギー基準を定める方式の一つであり、日本国内に出荷される製品の省エネルギー基準を現在商品化されている最高のエネルギー消費効率以上に定める方式のことです。

モーターによる消費電力量は、世界の消費電力量全体の40～50%を占めるとされており、多量のエネルギーを消費する機器となっています。

モーターの効率レベルは、世界的な規格である IEC 規格（国際電気標準会議）で規定されていて、我が国で適用されているモーターはほとんどが I E 1 レベルであるのに対し、米国では、ほとんどが高効率（I E 2）とプレミアム効率（I E 3）で、欧州でも高効率（I E 2）の普及が進んでおり、欧米をはじめとしてモーターの高効率化が進んでいます。

日本において、家庭用・業務用・産業用を合わせたモーターの普及台数は約1億台とされています。我が国の全消費電力量の約55%、多量のエネルギーを消費する機器となっています。トップランナー化（I E 3 プレミアム効率）により、電力削減量は全消費電力量の約1.5%に相当する155億kWh/年になると試算されており、極めて大きな省エネ効果が期待できることとなります。



[出典 Motor Systems(Motor Summit 2008)]

効率クラス	
IEC 規格 (IEC60034-30)	JIS 規格 (JIS C 4034-30)
IE4	スーパープレミアム効率
IE3	プレミアム効率
IE2	高効率
IE1	標準効率

世界の動き

各国における規制の時期と適用される効率クラス

2013年9月現在

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
米国	97~EPAAct: エネルギー政策法 EPAAct (IE2) 規制開始			EISA: エネルギー独立安全保障法 '10/'12~NEMA Premium (IE3) 規制開始						
豪州・NZ	MEPS (Minimum Energy Performance Standards) による '06~EFF1 (IE2+α) 規制発効						※現在IE2規制中の国の将来的な効率引上げの可能性は高い。			
欧州 EU27				欧州委員会 エコデザイン要求事項 '11/'6~IE2 規制開始				IE3 or IE2+インバータ駆動規制開始 '15/'1~7.5kW以上		'17/'1~0.75kW以上
韓国	段階的にIE2規制開始 '08/'7~45kW以上		'10/'1~15kW以上 '10/'7~0.75kW以上	'11/'1~8極機				段階的にIE3規制開始 '15/'1~37kW~200kW		'16/'1~15kW~37kW '17/'1~0.75~15kW
中国	エネルギー効率標準実施規則 '07/'7~ GB3級 (標準効率+α)			'11/'7~GB2級 (IE2+α) 規制開始 12/'9~新GB3級 (IE2) 規制開始					段階的に新GB2級 (IE3) 規制開始 '16/'9~7.5kW以上 '17/'9~0.75kW以上	
ブラジル			'09/'12~IE2 規制開始							
日本						★特定機器指定告示予定		'15/'4~IE3でのトップランナー規制開始予定		

■ : IE2 規制 ■ : IE3 規制